

【高等学校用】

令和4年度学校評価 計画

様式1(高等学校)

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立鳥栖高等学校
1 前年度 評価結果の概要	普通科進学校である本校にとって「学力の定着・向上」は最重要課題である。生徒へのアンケート結果では「学校生活に関する満足度」や「学校の学力向上への取組」について9割が肯定的意見であった。しかし、自分自身の「学習習慣の確立」については否定的で、各種テスト等の結果をみると学習内容の定着が十分でないところも見られる。進路関連の取組は計画のとおり実施できているが、各教科の授業やキャリアデザイン(総合的な探究の時間)は、生徒への効果的な助言や指導方法の更なる工夫改善を継続し、生徒が自発的に学ぶ意欲を高めていくことが肝要である。いじめ問題や心の教育については、状況に応じて迅速かつ組織的に対応することができている。また、広報活動の充実を図ること、保護者との連携を積極的に進めることで、開かれた学校づくりに活かしていく必要がある。全体として、どの項目についても一定の評価はできるものの、それぞれの課題について継続した取組が重要である。今までの成果をもとに検証を行い、学校全体で更なる改善に向けて取り組んでいく。
2 学校教育目標	校訓である「知を愛し、和を敬い、心を培え」を踏まえ、高い知性と豊かな人間性、たくましい心身を培い、高い使命感をもって社会の発展に貢献する人材を育成する。 (1) 幅広い知識と深い教養を身に付けさせ、論理的思考力と豊かな表現力を育てる。 (2) 敬愛・協働の精神を育み、高い倫理観と公正な判断力を育てる。 (3) 強い意志と健やかな身体を鍛え、自己実現と社会発展に真摯に取り組む態度を育てる。
3 本年度の重点項目	①学力の保障(授業を中心とした効率的な指導、ICTを活用した家庭学習やオンライン授業の充実を図る) ②生徒指導の充実(基本的学習習慣を身に付けさせ、ルールを守り主体的に行動できる生徒を育成する) ③進路指導の充実(「キャリアデザイン」を通して進路意識を涵養する) ④人権教育の推進(校内推進体制の充実を図る) ⑤新学習指導要領への対応(新教育課程編成とそれに伴う授業改善策を検討する) ⑥働き方改革への対応(教育活動の質を高めながら働き方改革を実践する)

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○家庭学習時間の確保と定着のための学年・分掌間で連携した取組	○低学年時に家庭での学習習慣を確立し、各学年での学習時間目標(学年プラス2時間)を達成した生徒の割合を70%以上にする。	*授業での初期指導を徹底し、学習の習慣化に努める。 *年次別、全学年で学習時間調査や生活アンケート等を実施し、情報を共有して対応策を講じる。 *担任と生徒の二者面談を積極的に進め、進路相談とあわせて生活習慣改善や学習意欲向上等の助言を行う。					教務部 進路指導部 各学年
	○授業の充実、改善に向けた効果的な取組	○学力向上のための効果的な指導のための授業改善に取り組み、自分の学力や技能が向上していると思う生徒の割合を90%以上にする。 ○各教科で研究授業を行い、教科分析会を実施する。	*常時すべての授業で相互見学可能とする。 *年2回以上の校内授業見学期間を設定する。 *年2回の授業評価アンケートの結果をもとに、教科会議で分析し、授業の工夫改善につなげる。 *可能な範囲で先進校への授業視察の機会を設け、情報を共有しよりよい授業づくりに活かしていく。また、予備校の教員向け講座も活用し、授業力向上を図る。					教務部 進路指導部
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○校内または校外の人権・同和教育講演会に参加した教職員の割合を90%以上にする。 ○SNSや個人情報等に関する講演等を通して、情報モラル教育の徹底を図る。	*人権・同和教育講演会、及び各クラスでの人権学習・進路保障PR等を実施し、正しい知識と公正な判断で行動できる態度の育成につなげる。 *講演会や各教科の授業等で、生徒が情報の取扱やトラブル未然防止について考える機会とする。					教務部(道徳教育推進担当、人権・同和教育担当) 情報広報部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対応等)について組織的対応ができていると回答した教職員の割合を90%以上にする。	*年間2回の生徒保護者向けのアンケートと対策委員会を実施する。 *担任・学年・生徒指導と連携をとり、学校生活全般においていじめ・体罰防止に取り組む。					生徒指導部 各学年
	○書物に親しみ、自己啓発を促す読書指導	○生徒一人当たりの年間貸し出し冊数5.0冊を維持する。 ○図書館の利用を促し、「図書館を月に1回以上利用している」と回答する生徒の割合を50%以上を目指す。	*長期休み期間は貸し出し冊数を増やす。 *新学期内を校内配布する。(学期に1回) *図書館だよりを発行する。(毎月1回) *県立図書館や市立図書館と連携して授業の資料をそろえる。(年1回以上)					図書部 各学年
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒の割合を95%以上にする。 ○毎朝朝食をとる生徒の割合を90%以上にする。	*食に関する意識調査を実施する。 *保健だよりを発行する。 *保健室未登生に、個々の状況に応じた指導を行う。					保健相談部 各学年
	●安全に関する資質・能力の育成	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	*通学路危険マップを作成し、全生徒に配布することにより、交通事故に巻き込まれない意識を高める。 *年2回の自転車点検、年1回の交通安全教室のほか、生徒会による呼びかけ、標語募集・看板設置なども随時実施する。					生徒指導部 各学年
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	*定時退勤日、部活動休業日、学校閉庁日、学校開庁閉庁時刻等を設定し、時間外勤務時間の縮減とともに、休暇を取得しやすいようにする。 *時間外勤務時間縮減に向けて、教職員からの声も聴きながら、できることを模索していく。					管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○進路指導の充実	○生徒の進路意識を高め、進路希望を実現するための適切な指導	○面談での助言が効果的だったと答えた生徒の割合を90%以上にする。 ○第一志望大学合格者の割合を増やす。 ○難関大5名、九州大20名、国公立大120名の合格を目指す。 ★キャリア教育の一環として、OBや本校関係者等による講演会を実施する。	*進路検討会や模試分析により、客観的に生徒の学力特性を把握し、面談等での的確な進路指導につなげる。 *入試問題研究の充実と各種研修会への参加を通して、教科指導及び進路指導の指導力向上を図る。 *難関大学志望生徒への学習指導について、各教科での工夫改善と全体での情報共有に努める。 *新教育課程に伴う大学入試変更点について、教職員の情報共有とともに、随時、生徒保護者への情報提供を行う。 *講演会等を実施し、生徒の進路意識を涵養する。					
○学校に対する生徒・保護者の満足度	○学業だけでなく、部活動やその他の活動に自ら積極的に取り組む姿勢を重んじる学校文化の中で、生徒が生き生きと学校生活を送ることができる教育活動	○アンケート(生徒は、学校生活に十分満足している)で肯定的な回答をした割合を生徒・保護者ともに90%以上にする。 ○学年ごとの保護者会参加率を80%以上にする。 ★県内外へ向けて本校の魅力積極的に発信する。	*部活動の活性化を図り、ボランティア活動、部活動以外の文化的活動、研修会など、様々な分野の活動の場を積極的に紹介していく。 *生徒の主体的な活動をできるだけサポートするよう努める。 *情報発信をより分かりやすく、定期的に本校の活動状況が保護者に分かるよう工夫する。 *さまざまな学校HP更新を行い、タイムリーな情報発信に努める。 *可能な範囲で中学校、学習塾、市町教育委員会等への訪問説明を行い、本校の魅力を伝える。					生徒会 情報広報部

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--